

セメント住吉社宅「龍遊館」活動報告



この建物は、大正13年に建築されたもので旧小野田セメント株式会社の役員住宅として使用されてきました。5棟ありましたが、現在は1棟だけ残されています。周壁を防火目的でコンクリート造として内部は土壁の和室が4部屋と洋室が1部屋あります。窓は鎧戸の入った洋風窓で現在はサッシに取り替えられています。

市としては、オレンジ色の屋根瓦の大正ロマンあふれるこの貴重な建物を借用したいと考え、市長から太平洋セメントにお願いしたところ、市が維持管理することなどを条件に、無償で貸与していただけることになりました。



平成19年11月30日『近代化産業遺産群』に認定されました

セメント住吉社宅保存活動の経緯について

平成18年10月13日よりまちづくり市民会議「太平洋セメント住吉社宅検討」部会が開かれ、5回の会議を経て、この建物の借用の必要性や公共施設としての活用・運営方法などについて、市民の意見を提言書という形でまとめ11月30日に提出しました。

提言書の要旨

外観は現状を維持し、室内は有効活用のため最小限に改修して、本市にない「市民活動センター」的な利用が適当であることの結論に達した。ただし、市に財政的な余裕がないことから、当面は市に負担をかけないことが求められている。このことを考慮し、この市民会議の有志が発起人となって太平洋セメント住吉社宅活用保存会（仮称）（今後「保存会」という。）なるものを設立して、趣旨に賛同を得られる活動を通して、改修費や維持管理費等に目途がついた時点で市の公の施設として位置づけ、利用に供することが望ましい。

補修工事について

工事費については市民からの寄付をもって当てることとして、300万円を目標にして集めました。昨年の12月末で150万円ほどの寄付が集まりました。

集まった寄付の範囲で補修工事を行うということで、洋室の床、基礎煉瓦の根巻き、軒部の塗装、エアコンの取り付けなどができました。洋室はカウンターを新設して喫茶室として利用しています。また、展示用にスポットライトが取り付けられるようにレールコンセントを設置しています。



平面図



改修前の洋間床 Pタイルの上にパンチカーペットがひいてあった。

大引きはそのまま使用、根太を取り替え



煉瓦束をコンクリート根巻きして補強



5月31日オープン記念イベント



テープカット（工場長・市長・議長・会長）



須恵太鼓による演奏

山陽小野田市絵画10人展

山陽小野田市内の作家による展覧会

5月31日から6月8日まで

出品作家：岸田悦雄・中務義仁・前田 徳・品川則夫・杉本善行
竹内秀夫・原田秀明・原田 茂・縄田也千・田上允克



喫茶「Ryu」



タンポポの会の展示



フリーマーケット



初日の来場者300名 9日間で500名の来場がありました。

6月24日 ケーキ教室

7月26日 藍染め教室



姉妹都市の秩父市から頂いた藍の種を龍遊館の裏庭で育てて、生葉での藍染めです。
タンポポの会の指導で、夏休みの作品作りに子供たちがたくさん集まりました。

8月6日～10日 からくり玩具展



セメント会社を退職した後、自宅でいろいろな模型を製作されている横田末春さんの作品展示です。子供向けに西田明夫のデザインした「動くおもちゃ オートマタ」や「せめんだる」(当時セメントを出荷するときに使用した樽)の製造機械の模型等が展示されました。

講演会：地球環境緑蔭塾とバイオマス

講師：山口東京理科大学教授 加納 誠 (かのうまこと)

日時：平成20年10月18日(土)

実演：専用バケツとEM菌を使った家庭ゴミのリサイクル



その他、小野田かるた協会、宝生会(謡曲)、ふるさとを考える会などが定期的に会合に使用しています。

会員の状況(12月31日現在)

正会員 118名 賛助会員 40名 寄付者 232名 企業寄付 19社

報告：セメント住吉社宅活用保存会 事務局 瀬口哲義